

---

# 絵本の国のありす

\*・° +くま+° ・\*

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

絵本の国のありす

### 【コード】

N8608E

### 【作者名】

\*・°・+くま+・\*  
\*・°・+くま+・\*

### 【あらすじ】

独りぼっちのありす、そんなありすの特技は本の中に入る事、ありすとその仲間が童話の物語を長い長い旅をする、その行く手には  
???

## ありすの特技

私の名前は長谷川ありす

有住坂高校に通う2年

変わった特技を除いて

私は平凡な毎日を送っていた

青葉が彩り青々とした草原が広がる真っ直ぐな大地

「もうすぐ夏ね」

こんな都会にでも、こんな静かな場所があるなんて誰しもが思わないだろう

いや、実際には無いのだがありす自身にははっきりと見えている

書斎室の小さな棚から1つの本が落ちている、この小さな棚は幼稚園児の頃父が作ってくれたものだった

その落ちていた本をよくみると、草原の中に確かに小さな人がいる  
大きな木の下で、これまた小さな本を読んでいた

静かで落ち着いた、誰にもじやまされないうりすだけの時間がここに  
ある

そうありすの変わった特技とは絵本の中に入り込むことだ

これに気が付いたのはありすがまだ幼いとき

昔からありすは家柄などで色々な大人たちが寄ってきて同年代の子  
と接点などなかった

さらに恥ずかしがりで見知らぬ人の激しいありすは、あまり友達もで  
きず、いつも本を読んでいた

大きなきなお屋敷にはいつもありすは独りぼっち

メイドさんはいつも食べきれないほどのご飯を果てしなく長いテー  
ブルに並べる

「いらぬ」

これはありすの口癖でもある

富と栄誉なんてありすには必要なてなかった

甘いお菓子やおもちやなど子供が喜びそうな物を与えても

「いらぬ」

と言いつ張る、いつの間にかありすは何処か寂しい少女に成長してし  
まった

だが一つありすは好きな物があった

今も昔もそれはたった一人のお友達

寂しさを紛らわしてくれる魔法の物

本があれば、ありすは十分だった

お人形やおままごとセットなんて物もいらぬ

だいち一緒に遊ぶ人がいないありすにとっては全く無意味だった  
ただ本があれば……

まるで子供の発想とは思えない

しかも子供が読むような絵本でも無く女の子が好きな少女マンガで  
も無い

ありすが好きな本は、大人だって読みたくなるような分厚い本

そしてある日ありすは本の横に書いているイラストに出会う

いつもなら文だけでイラストなど全く見向きもしないのだが

そのイラストにありすはただ啞然としていた

それは、あまり有名では無い物語だったがありすは一番好きな本だ、  
もう3回以上は読みかえしている

しかしその好きな本でさえイラストなどはチラッとみるくらい

しかし、そのイラストをよく見るとありすは深く感動した

家には有名な画家たちが描いた作品など腐るほどある

しかしこのイラストはどの有名な画家の作品だろうとありすの心の中  
ではこのイラストが一番だった

小さなスペースに書かれていたのは

喉かな街並みだった

車や電車などは一切ない

多分不自由な暮らしだろう

しかし、人びとの顔には笑顔が溢れていた

「この本の中に入れるのならば私はどんなに幸せだろうか」

そうありすが呟いた瞬間

「キヤアツ!!!」

本がブラックホールのようになり、だんだん吸い込まれていく

早く、早く助けを呼ばなければ

しかし、夜のお屋敷には誰一人いない助けをもとめても無駄だ  
ありすはどんどん本へと吸い込まれていく

「キヤアツ!!!」

吸い込まれたかと思えば大きな穴へと落ちていく

とてもとても深い穴

そしてもう少し先に光が見える

きつと出口だわ

けどもう遅い、下に落ちれば確実に死ぬ

.....あれ???

目を開けるとそこは地面だ

痛さを感じない??

立ち上がって体を見回しても傷一つ無い

「あんな高いところから落ちたのに、おかしいわ」

きつとこれは、夢なんだわ

それでなきやおかしいもの

周りを見てありすは、更に驚く

そう、それもそのはず、そこは一面あのイラストの景色があるのだ

夢にしては、うまくできてるわね

トンボや、鳥のさえずりまで聞こえてくる

真っ赤な夕日に包まれた街並みは、人々を暖かく照らす

ああ、なんて綺麗な場所なのかしら??

夢なら覚めなければ良いのに

もし現実なら凄く嬉しいわ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8608e/>

---

絵本の国のありす

2010年10月11日23時57分発行